

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年12月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■ 県立大垣養老高等学校 「西濃農業の現地巡回学習会」開催

西南濃農業普及事業推進協議会（会長：大垣市長）は、12月14日、県立大垣養老高等学校1年生を対象とした現地巡回学習会を開催した。これは、将来の地域農業の担い手確保を目的に開催したもので、学習会参加を希望した生徒19名の他、引率の教諭及び市町の関係職員等が参加した。

学習会では、管内で活躍する指導農業士など担い手リーダー5経営体（土地利用型作物、施設園芸、花き、畜産、6次産業化）を視察した。

参加した生徒達からは、実際の農業技術や農業経営に触れることができ、「出荷調製した葉の活用について」「露地野菜を導入した経緯」「畜舎の構造について」など多くの質問もされ、メモを取るなど高い関心を持って学習する姿が見られた。

農林事務所は、この学習会が実際の農業現場を知ってもらう良い機会となり、将来の西濃地域の農業を担う人材を育てる一助になるよう企画・支援を行った。



【説明を受ける生徒】

### 西濃の農業・農村を支える人材育成

#### ■ ナシ 西濃ナシ倶楽部（第1回目）の開催

これまでの「大垣市梨塾」を解散・再編し、ナシ産地の維持拡大と担い手育成を目的とした「西濃ナシ倶楽部」の第1回目の研修会を、12月12日に大垣市曾根町の公民館およびナシ園で開催した。大垣市ナシ産地の後継者に加え、海津市で新たにナシ栽培に取り組む後継者候補者計6名が参加した。

今回は、ナシのせん定について農林事務所から資料説明を、県農業経営課農業革新支援専門員からナシ園で実演指導を行った。

西濃のナシは直売が主体であり、消費者ニーズも見込まれることから、今後「西濃ナシ倶楽部」として活動を行うことで、西濃地域の特産品として生産拡大が期待される。



【西濃ナシ倶楽部  
研修会の様子】

### 安心で身近な「西濃の食」づくり

#### ■ 有機 西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議（第2回）

11月28日 神戸町にて、農林事務所主催の有機農業推進プロジェクトチーム会議を開催した。営農モデル実証ほ（水菜）担当農家、JAにしみの、神戸町役場、県農産園芸課が出席し、実証ほの結果について検討した。

実証ほは、2作目までが終了し、有機実証区の収量は慣行と同等、害虫（アザミウマ）は慣行より抑制でき、太陽熱は目標地温に到達、といった成果が得られた。一方、食味で有機の方が「あと味」が悪いといった傾向も見られ、植物体（水菜）中の硝酸濃度を下げる栽培に取り組むことで食味向上につながらないか等検討された。

有利販売が今後の課題となるため、農林事務所では近県の有機農産物取扱い店舗の情報収集を行い、こうした店舗との取引を模索し、販売を支援していく。



【会議の様子】

## 西濃農畜産物のブランド展開

### ■ 水稲糯「ふわりもち」 「ふわりもち」PRにむけた加工品販売会の開催

関ヶ原町では、営農法人の経営の一助とするとともに、地域の農産物・特産品として定着させる取り組みとして、水稲糯「ふわりもち」の生産振興を行っており、農林事務所も継続的に支援をしている。

12月20日に県庁舎2階の物販スペースにおいて、「ふわりもち」PRのための加工品販売会を農林事務所の発案により開催した。これまでも関ヶ原町の「関ヶ原合戦祭り」において加工品の販売を行ってきたが、町外に出での販売会は初めてとなった。

販売会では、関ヶ原町及び近郊のお菓子屋、カフェ、製麺所などの商品が取り揃えられ、訪れた方に「ふわりもち」をPRすることができた。

農林事務所では、今後も関ヶ原町・JAにしみのと連携し、「ふわりもち」の安定生産と販売拡大等について支援していく。



【販売会の様子】

### ■ 牧園芸組合 祝だいこん目揃え会

12月15日に牧園芸組合出荷場で生産者3名とJAにしみの・市場関係者が出席し、祝だいこんの目揃え会が開催された。祝だいこんは、正月用食材として関西で需要があり、大阪市場へ出荷されている。

農林事務所からは12月8日に行った生育調査をもとに、追肥の必要性などの情報提供を行った。播種時期の調節により、8日の調査時点の根径の大きさは平均26.5mmと順調な推移だった。12月の高温により規格を超えるような肥大が懸念されたが、収穫開始時点では大半が規格内に収まり、生理障害の発生も少ないことから例年の出荷量を上回ると予想される。

なお収穫は、18日から年末まで行われ、適期収穫が行えるよう農林事務所として情報提供を行い支援した。



【出荷前の祝だいこんの様子】

### ■ 冬春トマト 海津トマト部会支部研究会

海津トマト部会は、12月8日から18日にかけて支部研究会を開催した。海津トマト部会は地区ごとに5つの支部があり、支部ごとに栽培概況や病害虫について学ぶための支部研究会を開催している。

令和6年産は、出荷量が例年をやや下回っており堅調な販売が続いている。農林事務所からは、厳寒期に向けた栽培管理の方法や病害虫の発生状況とその対策について情報提供した。

ほ場巡回もあわせて実施し、生育状況を見ながら管理や防除の方法について活発な意見交換がなされた。

農林事務所では、引き続き栽培技術の指導等を通して海津トマト部会の活動を支援していく。



【ほ場巡回の様子】